



Japan Institute for Health Security

第25回特定機能病院及び地域医療  
支援病院のあり方に関する検討会

令和7年6月10日

資料  
2-1

# 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター

# 国立健康危機管理研究機構（JIHS）の誕生

2025年4月、国立感染症研究所(NIID)と国立国際医療研究センター(NCGM)が統合し、「国立健康危機管理研究機構(JIHS)」が誕生

## MISSION

感染症をはじめとする健康危機に対して安心できる社会を実現する

## VISION

世界トップレベルの感染症対策を牽引する「感染症総合サイエンスセンター」として、基礎、臨床、疫学、公衆衛生にわたるすべての領域研究を統合的に推進し、最先端の医療と公衆衛生対策を提供する

## CORE VALUE

Global 常に世界的な視野で  
Innovative 革新的に  
Professional 高度な専門性に基づき

Resilient 強くしなやかに  
Integrity 公正かつ誠実に

# 国立健康危機管理研究機構の4つの機能

## ① 情報収集・分析・リスク評価機能（Disease Intelligence）

サーベイランスや情報収集・分析の実績、国内外の関係機関との協働・連携により、感染症インテリジェンスにおけるハブとしての役割を担います。科学的知見を政府に迅速に提供するとともに、国民に分かりやすい情報提供を行っていきます。

## ② 研究・開発機能（Research, Development and Innovation）

平時より世界トップレベルの研究体制を確保し、基礎研究、シーズ開発から臨床試験まで戦略的に進められる組織を目指します。感染症危機の際には、国内外の機関等と連携し、臨床試験を含め研究開発のネットワークハブとして迅速に対応します。

## ③ 臨床機能（Comprehensive Medical Care）

感染症危機にJIHSの持つ機能を十分に発揮するためには、高度な臨床能力が不可欠です。そのため、国立国際医療研究センターが担ってきた総合病院機能を引き続き備え、さらに高めていくことにより、人々の健康を守ります。

## ④ 人材育成・国際協力機能（Human Resource Development, International Cooperation）

産官学連携や国際的な人事交流などを通して、医療従事者・研究者・公衆衛生実務者など多様な専門家の育成・確保に努めます。また、グローバルヘルスに貢献する国際協力を進めていきます。

## 政府から求められる役割

「新型インフルエンザ等政府行動計画」において、JIHSの果たす役割として以下が示されている

- (1) 専門性の高い感染症危機管理人材の育成
- (2) 地方衛生研究所等や諸外国とのネットワークを活用した情報収集に基づくリスク評価
- (3) 行政、医療機関の情報収集・共有・分析、研究開発や臨床研究等のネットワークのハブの役割
- (4) 科学的知見の迅速な提供、対策の助言と分かりやすい情報提供・共有
- (5) 国際機関や諸外国の政府、研究機関等との連携

## 医療の提供・支援

- ◆ 国と連携して、特に医療機関や研究機関、検査機関の機能等の向上のため、人材の交流も含め、**人材育成や研究開発の支援**等を行う
- ◆ 国立国際医療センターの診療継続計画に基づき、新型インフルエンザ等対策の体制整備、職員の健康管理と啓発、**病院機能の維持・業務継続及び医療資機材の確保等について、必要な措置を講ずる**

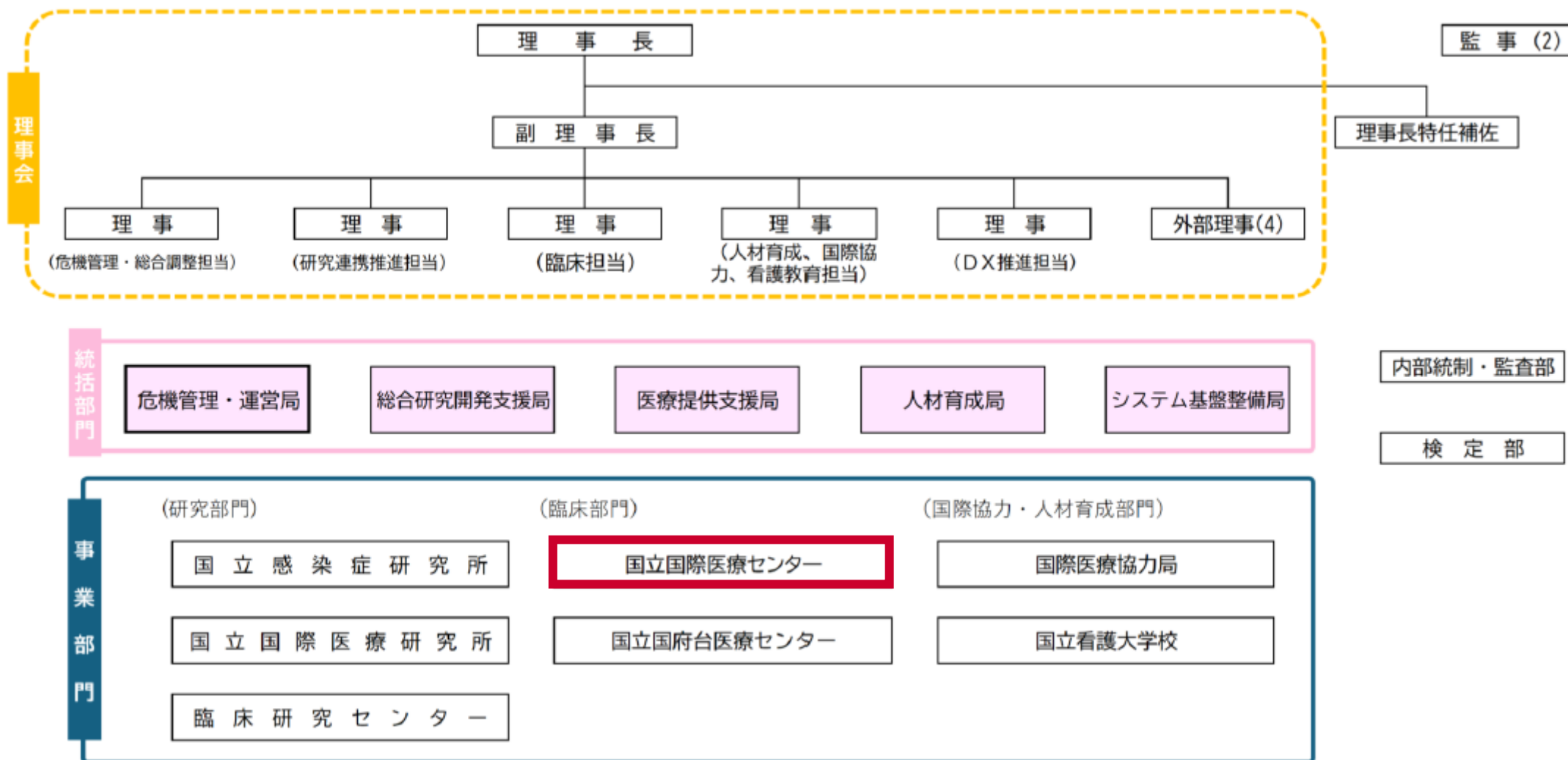
## ワクチンの開発

- ◆ 国と連携して、危機管理の観点から感染症危機対応医薬品等を国内で利用できるようにすることが必要な感染症について、分析や評価を行う
- ◆ 国と連携し、ワクチンの開発を推進するため、平時から国内外の研究機関や製薬関係企業等と連携し、**病原体やゲノム配列データ等の情報を早期に入手し、研究開発を行う関係機関に対し分与・提供**する

## 治療薬・治療法の開発

- ◆ 国及びAMEDと連携し、新しい技術の活用を含め、**臨床研究ネットワーク事業（iCROWN事業）を通じて 感染症危機対応医薬品等や治療法の研究開発を推進**する
- ◆ 国と連携し、国内外の重点感染症の治療薬・治療法の研究開発動向や備蓄の状況、臨床情報等に関する情報を収集・分析する
- ◆ 都道府県から指定された**感染症指定医療機関と連携した臨床情報、検体及び病原体を管理・集約できる体制を構築**する
- ◆ 国及びAMEDと連携し、新たな治療薬・治療法の研究開発のため、国内外の関係機関と連携し、準備期において構築した重点感染症に対する研究開発基盤等を活用し、**早期の臨床応用を目指し、基礎研究及び橋渡し研究を迅速に実施**する
- ◆ 国と連携し、既存の治療薬・対症療法薬や開発・承認された治療薬を用いた治療法の確立に資するよう、得られた知見を整理し、関係学会等による科学的知見の共有や適正な使用を含めた**診療指針の策定や見直しを支援**する

# 国立健康危機管理研究機構 組織図



# 国立国際医療センターの概要

1. シームレスな総合医療の提供（病床数716、診療科43）  
2024年度実績  
入院数16,985人/年、外来数1,485.6人/日、手術数5,948件/年
2. 充実した救急医療  
2024年度年間救急車受け入れ実績：11,303件
3. 医師の卒後研修  
2025年4月現在 初期臨床研修医65人、後期臨床研修医（レジデント）90人
4. 特殊疾患への対応（新感染症、エイズなど）  
国際感染症センター、エイズ治療・研究開発センター
5. 外国人患者への対応、先進医療など  
国際診療部、臨床ゲノム診療、高度先進医療

# 国立国際医療センターの概要

## 6. 医師数

467人（常勤） ※R7.4.1現在

## 7. 先進医療（2024年度報告）

|                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（P C R 法） | 1件 |
| 子宮内膜擦過術                             | 4件 |
| 自家臍島移植術                             | 1件 |

|         |          |      |
|---------|----------|------|
| 8. 臨床研究 | 2024年度実績 | 934件 |
| 治験      | 2024年度実績 | 29件  |

## 9. 論文数（英文）

2024年度実績 439件（NCGM）

## 国立国際医療センターの概要

|              |                |                                 |
|--------------|----------------|---------------------------------|
| <b>1868年</b> | <b>(明治元年)</b>  | <b>兵隊假病院(山下門内、現在の帝国ホテル付近)</b>   |
| <b>1879年</b> | <b>(明治12年)</b> | <b>東京陸軍病院</b>                   |
| <b>1907年</b> | <b>(明治40年)</b> | <b>森鷗外が陸軍軍医総監・陸軍省医務局長に就任</b>    |
| <b>1929年</b> | <b>(昭和4年)</b>  | <b>陸軍東京第一衛戍病院(現在地の新宿区戸山に移転)</b> |
| <b>1936年</b> | <b>(昭和11年)</b> | <b>東京陸軍第一病院</b>                 |
| <b>1945年</b> | <b>(昭和20年)</b> | <b>国立東京第一病院</b>                 |
| <b>1974年</b> | <b>(昭和49年)</b> | <b>国立病院医療センター</b>               |
| <b>1993年</b> | <b>(平成5年)</b>  | <b>国立国際医療センター病院</b>             |
| <b>2008年</b> | <b>(平成20年)</b> | <b>国立国際医療センター戸山病院</b>           |
| <b>2010年</b> | <b>(平成22年)</b> | <b>独立行政法人 国立国際医療研究センター病院</b>    |
| <b>2015年</b> | <b>(平成27年)</b> | <b>国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院</b>  |
| <b>2025年</b> | <b>(令和7年)</b>  | <b>国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター</b>  |



# 目次

1. 高度医療の提供

2. 研究

3. 人材育成

4. その他

# 特定感染症指定医療機関（全国4か所、10床）



- 2003年4月特殊感染症病棟開棟（4床）  
2014-16：エボラ疑似症 4 例、MERS疑似症 3 例受け入れ
- 厚労省からの指示により「新感染症」を対象とし、即座に患者受け入れができる体制
- 看護師は看護師長含む27人体制（兼務）、患者受け入れを決定した時点で新感染症病棟勤務（専任）となる
- 定期的に訓練を実施（患者受け入れ訓練、机上訓練）

# 1. 高度医療の提供（感染症への対応）

COVID-19への対応：武漢からの帰国者のスクリーニング対応

- 合計5フライトから829人の武漢からの帰国者のスクリーニング対応を実施。829人中14人がCOVID-19に感染（入院時には無症状であった6人中、3人はその後発症）した。
- 結果として適切な感染対策の結果、二次感染を起こすことはなかった。



中国・武漢からの帰国便 羽田空港に到着[20/01/29]



# 1. 高度医療の提供（感染症への対応）

COVID-19への対応：ダイヤモンドプリンセス号への対応

- 未曾有のアウトブレイクとなったダイヤモンドプリンセス号における  
**感染対策を他の専門機関と協力しながら実施**した



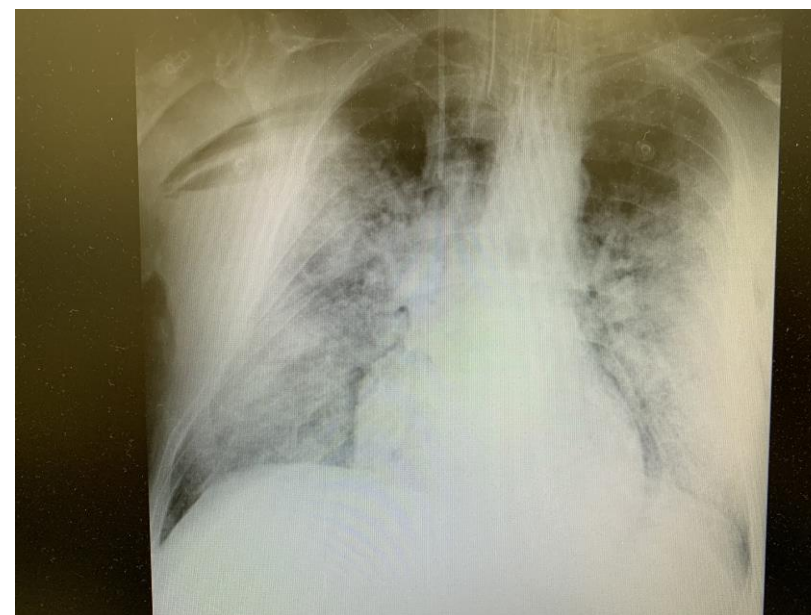
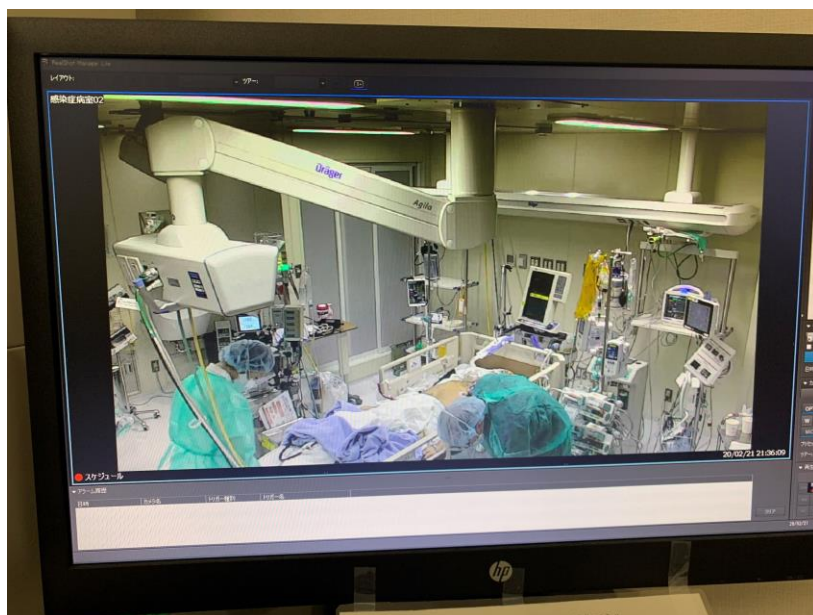


# 1. 高度医療の提供（感染症への対応）

COVID-19への対応：重症患者の対応

■ COVID-19発生「初期」から重症患者の診療を行った。

10例に対して体外式膜型人工肺（Extracorporeal Membrane Oxygenation : ECMO）を実施。



# 1. 高度医療の提供（感染症への対応）

COVID-19への対応：高頻度に合併する血栓症の対応

■ COVID-19初期から高頻度に血栓症の合併を起こすことに着目し、  
総合病院機能を活かして、COVID-19の血栓症の合併症の治療や対策を実施。

■ COVID-19に対する決定的な治療法が確立されていない状況である2020年6月「日本における中等症から重症のCOVID-19患者に対する未分画ヘパリンを用いた抗凝固療法のアルゴリズム」を提案し、論文に公開した。

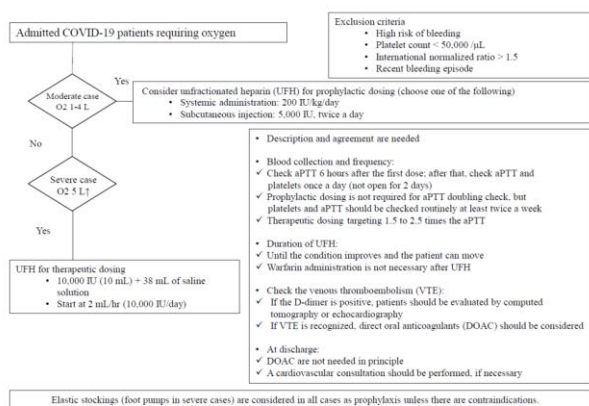


Figure 1. Algorithm for unfractionated heparin anticoagulation treatment in patients with moderate to severe COVID-19. This figure shows the algorithm for unfractionated heparin anticoagulation therapy in patients with moderate to severe COVID-19 that can be used safely in Japan.



COVID-19に認めた巨大な急性門脈血栓症

# 1. 高度医療の提供（感染症への対応）

COVID-19への対応：特殊な基礎疾患を有する患者の対応

■ 総合病院機能を活かして数多くの特殊な基礎疾患を有する患者の対応を実施。

## ①外科手術

- ・ 陰圧室を利用し、手術スタッフに感染対策を十分に行い、帝王切開、腹部手術、骨折手術などを積極的に行った。
- ・ 結果、令和2～6年度で、**90例のCOVID-19患者の手術**を実施。





# 1. 高度医療の提供（感染症への対応）

COVID-19への対応：特殊な基礎疾患を有する患者の対応

■ 総合病院機能を活かして数多くの特殊な基礎疾患を有する患者の対応を実施。

## ②腎疾患

### 急性血液浄化

- ・ ポリミキシンB固定化線維カラム  
（polymyxin B-immobilized fiber column : PMX）療法 : 33例
- ・ 持続的血液濾過透析（Continuous Hemodiafiltration） : 5例
- ・ 血漿交換 : 1例

### 末期腎不全患者

- ・ 維持透析患者 : 15例
- ・ 腎臓移植患者 : 2例



## ③妊婦

: 43例



# 1. 高度医療の提供（感染症への対応）

COVID-19への対応：特殊な基礎疾患を有する患者の対応

## ④免疫不全

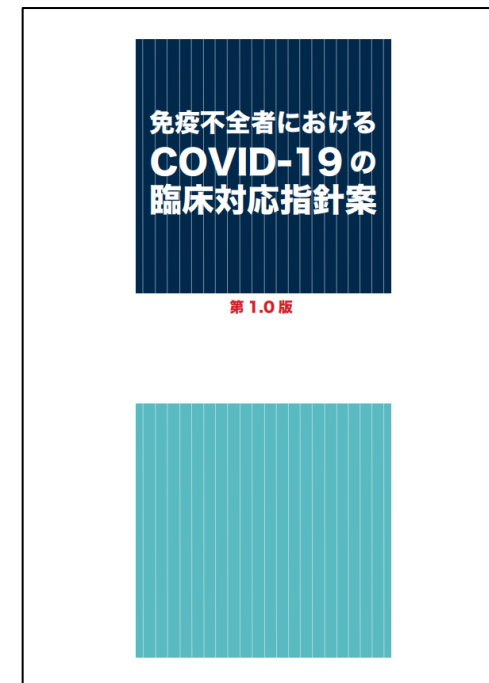
- ・ 治療や感染対策に難渋する免疫不全を有する患者に計19例（高度免疫不全6例、中等度免疫不全13例）の診療を実施。
- ・ 得られた知見を基に国立感染症研究所や、その他の専門家と協力し「免疫不全におけるCOVID-19の臨床対応指針案」を作成し、他の医療機関への情報を発信も実施。

## ⑤感染症対策支援サービスの実施

- ・ NCGMが経験した高度医療の知見に基づいて、他の医療機関への相談対応を実施した



<https://dcc-irs.ncgm.go.jp/material/archives/>

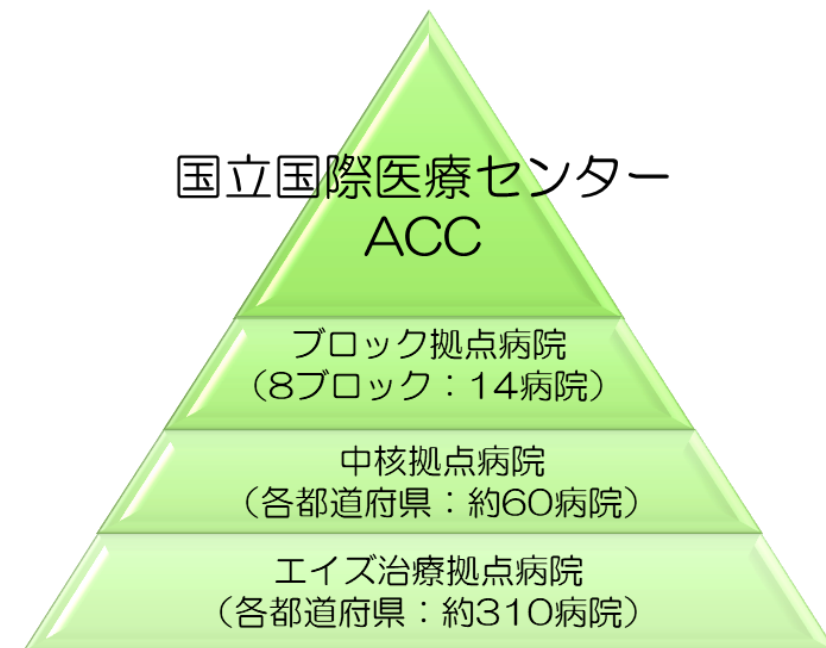


<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/covid19-rinsyoutaiou.pdf>

# 1. 高度医療の提供（薬害エイズ被害者救済）

- 薬害エイズ裁判の和解による恒久対策として、1997年に国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター（ACC）が設置され、ブロック拠点病院14病院、拠点病院等約370病院を主導し、**日本のHIV医療体制を牽引**している。

- ACCでは、国内外のHIV感染症の治療・研究機関を主導し、新しい治療法開発のための臨床研究、HIV感染症の医療水準の向上を目的とした最先端の医療情報の提供や医療従事者・地域支援者に対する研修の開催による人材育成など、多岐に渡る役割を担っています。



# 1. 高度医療の提供（専門的な医療の提供）

## スーパーマイクロサージャリーによる高難度再建外科手術

- 0.5mm以下の血管吻合を可能とする超微小外科（スーパーマイクロサージャリー）は様々な高難度再建外科手術を可能としている。
- 皮膚・脂肪・リンパ・神経・筋肉・骨・消化管などを移植し、鼻・耳・口・頭頸部・乳房・手指・陰茎・体幹・下肢など、全身の様々な組織欠損・機能障害を再建することができる。
- **日本発の技術**であり、当センター形成外科医師が世界初の術式を多数報告し、**世界各地で公開手術・手術指導**を行っている。
- 海外から、患者のほか医師も積極的に受け入れ、2017年以降173人の外国人医師を受け入れ指導している。

# 1. 高度医療の提供（専門的な医療の提供）

スーパーマイクロサージャリーによる高難度再建外科手術



米国ハーバード大学(BIDMC)での手術手技指導

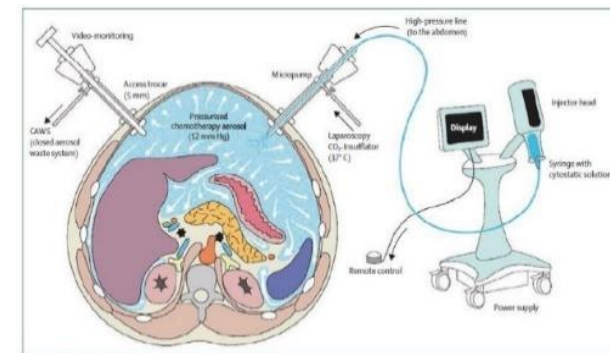


シンガポール国立大学(NUS)での手術指導

# 1. 高度医療の提供（専門的な医療の提供）

## 大腸癌腹膜播種の集学的治療

- 大腸癌腹膜播種は診断が難しく化学療法が無効で、予後不良とされている。
- 治療ガイドラインにおいて可能な症例は完全切除を推奨されている。
- 当センターでは診査腹腔鏡による適切な患者選択と、安全かつ確実な腹膜切除による完全切除を行っている、**わが国でも極めて限られた施設**である。
- また、欧米で普及しつつある、腹膜播種に対する緩和的腹腔内化学療法である加圧腹腔内エアロゾル化学療法（PIPAC）は、腹腔鏡下に抗がん剤を加圧エアロゾルとして噴霧する新規局所療法であり、**わが国で初めて導入**を予定している。



(Alyami, et al. Lancet oncology 2019より引用)



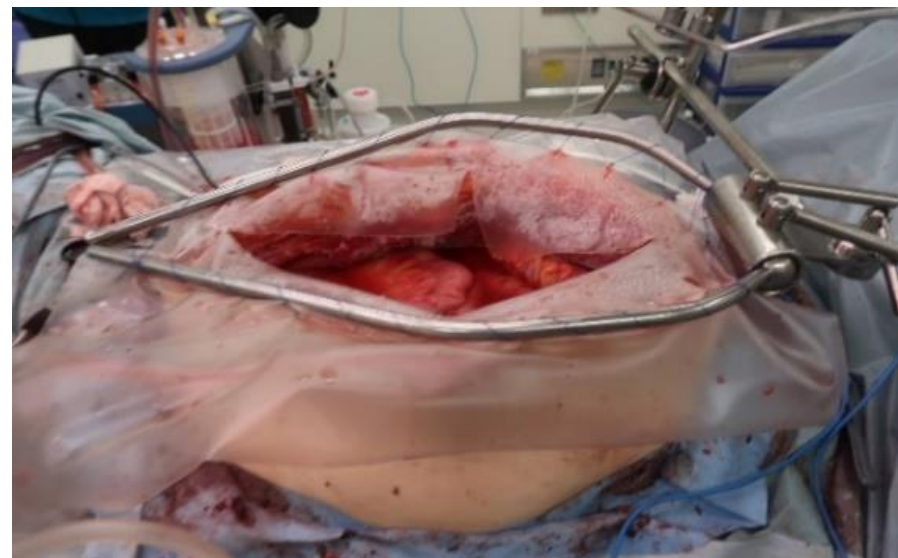
# 1. 高度医療の提供（総合病院機能）

## 腹膜偽粘液腫の手術

- 腹膜偽粘液腫は、虫垂の腫瘍が破裂（穿孔）して腫瘍細胞が腹腔内に散らばり（播種）、細胞が産生する粘液が腹腔内に貯留する病態。
- 当センターは、腹膜偽粘液腫に対して腹膜切除＋術中腹腔内温熱化学療法を行っている、わが国で極めて限られた施設の一つとなっている。
- 本治療法は高難度・高侵襲治療法のため、総合病院の特性を生かし各科と連携することで安全に施行することが可能となっている。
- 結果として、全国から患者が集まり、令和6年度はセカンドオピニオン186件、手術件数は腹膜疾患137例、そのうち完全減量切除＋術中腹腔内温熱化学療法45例の手術を実施し、重篤な合併症は6.7%と低率であった。

# 1. 高度医療の提供（総合病院機能）

## 腹膜偽粘液腫の手術



# 1. 高度医療の提供（総合病院機能）

## 外来アフェレシスの実施

- アフェレシスとは、患者さんの血液を体外に取り出して、特定の成分（例：白血球、血小板、脂質、抗体など）を選択的に除去・回収・交換し、残りの血液成分を体内に戻す治療法。当院では神経疾患、肝疾患、腎疾患等の症例に対し実施しており、令和6年度は184例実施。
- 当院は総合病院としての機能を備えており、そのバックアップによりアフェレシス、特に血漿交換治療を外来で実施できる全国でも数少ない医療機関となっている。この体制により、患者の希望（仕事や学業との両立等）に応じた医療を提供することが可能となっている。
- 治療の実施にあたっては、関係科の医師をはじめ、アフェレシスに高い専門性を有する看護師、機器操作に精通した臨床工学技士、その他多職種が連携し、多職種カンファレンスを実施している。

# 1. 高度医療の提供（総合病院機能）

## 外来アフェレシスの実施



遠心式血漿交換の準備をする  
臨床工学技士



**JIHS**  
Japan Institute for Health Security

**ISFA 2025**  
15th ISFA World Congress  
4th ISFA National Congress  
The Berkeley Hotel Pratnam Bangkok, Thailand  
17th-19th July 2025

**JIHS/NCGM**

### The efficacy of Centrifugal plasma exchange and our vision for outpatient apheresis therapy.

**Daisuke Katagiri, MD, PhD, FASN**  
Japan Institute for Health Security, National Center for Global Health and Medicine  
Nephrology

<https://www.jihs.go.jp/index.en.html>

第15回国際アフェレシス学会においてNCGM  
片桐医師が講演予定（2025年7月17日-19日）

# 1. 高度医療の提供（専門的な医療の提供）

## 脊髄性筋萎縮症(SMA)への遺伝子治療

- SMAは脊髄運動神経の変性により全身の筋萎縮を生じる。症状が最も重いⅠ型は人工呼吸器の呼吸補助なしでは2歳を超えて生存できない遺伝性神経筋疾患。
- これまで乳児期に「人工呼吸器をつけるか」、「看取るか」の選択だったが遺伝子治療薬ゾルゲンスマの投与により、運動機能の向上がみられ、短時間であれば呼吸器が離脱でき、普通級に通学できる児も増えてきた。親の介護負担も劇的に改善している。
- 呼吸管理や、全身管理、排せつ物や、体液の取り扱い等、高い専門性をもった関係科の医師、薬剤師、看護師などの多職種が連携することにより、リスクに応じたバックアップ体制を備え、適切な治療を実施可能としている。また、治療後に神経リハを実施し、運動機能向上、介護の負担軽減に寄与している。
- 東京都新生児スクリーニング検査の陽性者に対して、迅速遺伝子検査による超早期診断、未発症状態での治療介入などの体制整備事業に参画している。



# 1. 高度医療の提供（専門的な医療の提供）

## 脊髄性筋萎縮(SMA)への遺伝子治療

これまで
2020年
保険収載後 (2020.5~)の投与症例

乳児期に人工呼吸器をつけるか、看取るかの選択
 原因(SMN1)遺伝子を1回の点滴静注で導入する遺伝子治療薬ゾルゲンスマ (薬価: 1億6,700万円) の保険収載 2020.5月
全国で約100例
うちNCGMで4例 (都内最多)

### NCGM 1 例目 都内初の投与



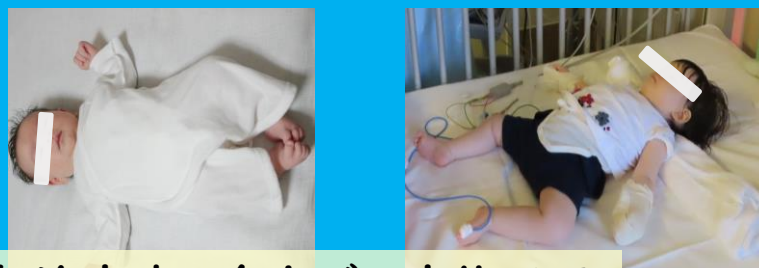
人工呼吸器から  
離脱可能に



補助歩行  
可能に



### NCGM 2 例目



治療後



投与後9か月で  
立位可能に



神経・筋難病に  
対する高度総合医療



ロボットスーツHALによる神経リハも導入

# 1. 高度医療の提供（地域医療の提供）

## 救急医療体制

- 救急搬送患者は、コロナ下の令和3年度以降も毎年10,000人を超えており、全国トップクラスの救急搬送受入件数を維持するとともに、搬送受入要請に対して非常に高い応需率を維持している。
- また、厚生労働省の全国救命救急センター充実段階評価で連続して“S”評価を獲得しており、評価点も毎年更新し続けている。
- 5か所の医療機関に受入要請を行ったにもかかわらず受入医療機関が決まらない精神身体合併症患者を受け入れる都内唯一の医療機関であり、令和6年においては18例の患者の受け入れを行った。

# 1. 高度医療の提供（地域医療の提供）

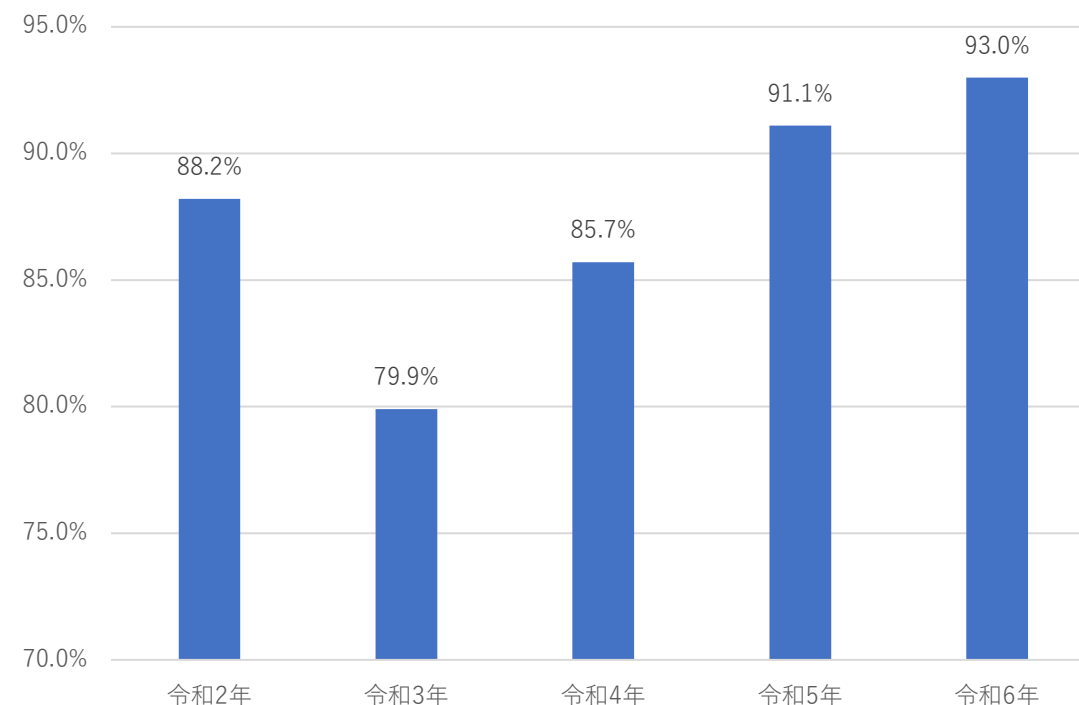
## 救急医療体制



最大6台の救急車が並んだ状況（令和4年8月初旬 午前8:30頃）

COVID-19の感染のピーク時には、救急患者を診察するスペースに定員以上に搬送患者を収容しても、更なる患者搬送依頼が続いたため、救急車内で待機してもらい、簡易患者診察やPCR検査をしなければならない状況が1か月程度続いた。

救急応需率



# 目次

1. 高度医療の提供

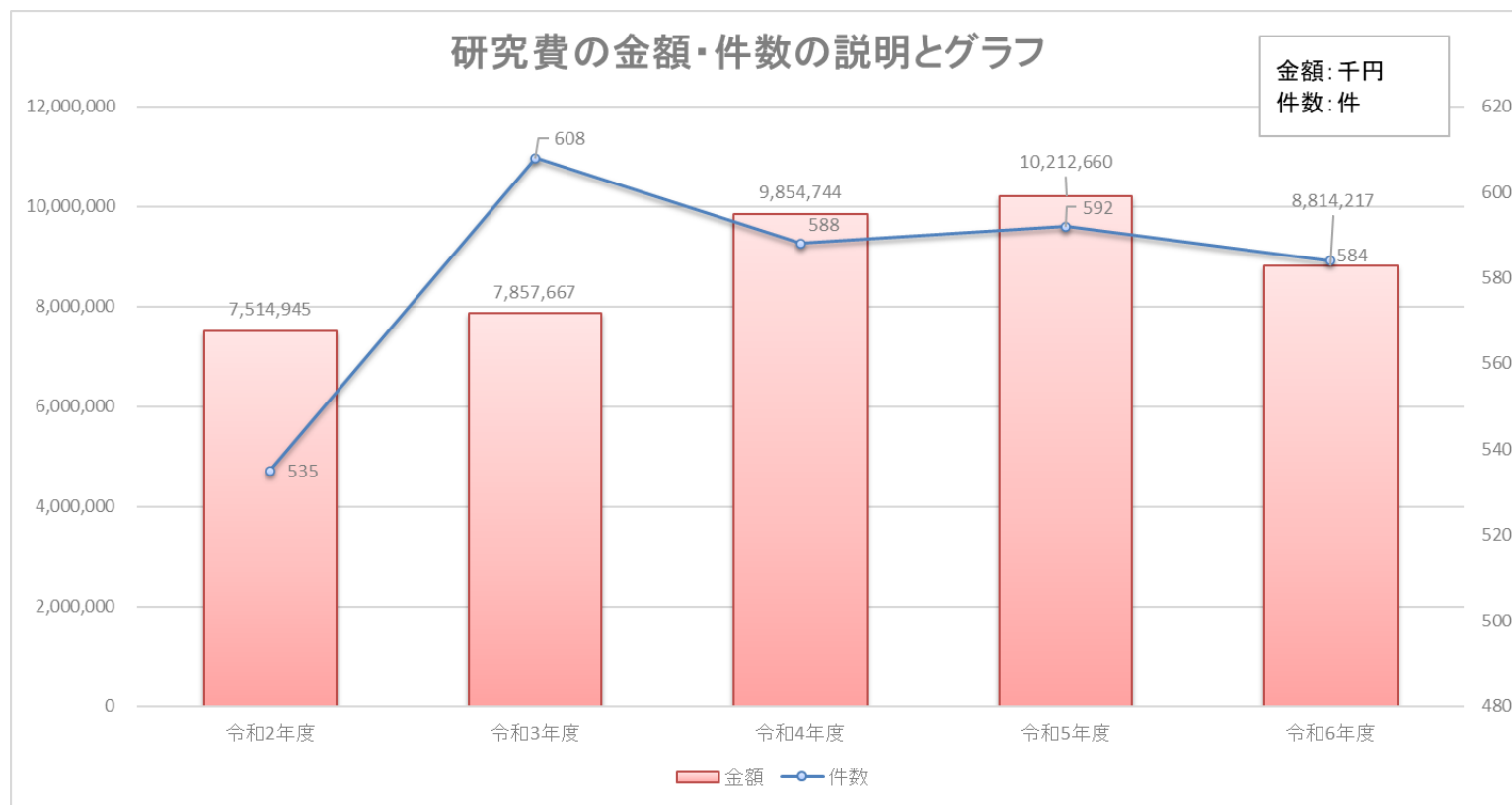
2. 研究

3. 人材育成

4. その他

## 2. 研究（研究件数・金額）

- ここ数年、500件を超える医療分野の研究を実施し、研究費も100億円前後の高い水準を維持している。
- この他、内閣府主導の国家プロジェクト「第3期（令和5年～）戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）」における研究推進法人として、約285億円（令和5・6年度予算）の研究資金について、研究開発責任者の公募や資金管理、研究開発テーマの進捗管理等を実施している。





## 2. 研究（研究者の育成）

### Physician Scientistの育成

- NCGMクリニカルリサーチグラント(NCGM-CR-Grant)を設置し、臨床研究者育成部門を通じて、競争的資金等の獲得が困難な若手の臨床研究者に必要な英文校正費や論文投稿料等の支援を実施。
- 研究成果を論文化する際のアドバイスをを行う研修会を毎月開催するとともに若手医師を対象とした統計手法やコンピュータソフト利用法の講習会を開催し、令和4年度は8回115人、令和5年度は3回86人、令和6年度は8回223人（延べ人数）が参加。
- 臨床研究の実施を志す者を育成することを目的として、3か月間の研修を実施。臨床研究のプロトコルを自ら作成する過程を通じ、研究対象者の選定・文献検索・研究デザイン・症例報告書作成・データ管理・研究倫理などプロトコル作成に必須の事項を習得させ、論文作成支援も実施。



## 2. 研究（新感染症への対応）

### ニパウイルスへの対応

- 1993年にマレーシアで発見された新種のウイルス。発症した際の症状としては、発熱や筋肉痛といったインフルエンザ様症状だが、一部に急性呼吸器感染症、脳炎、心筋炎を発症することがある。日本での症例はまだ発見されていないが、2023年にはバングラディシュ、インドでアウトブレイクの報告があり、致死率は約40～75%と非常に高い。
- 厚生労働省委託事業「国際感染症危機管理対応人材育成・派遣事業」において、日本での感染症危機管理に活かすため、感染研の疫学者、基礎研究者とともに、NCGMから3人の医師を、インドに派遣。現地での医療機関やWHOと世界的懸念や、治療方法等について意見交換を実施。
- 現地での意見交換や視察、科学的知見等をもとに、「ヘニパウイルス感染症診療指針」を作成した。

## 2. 研究（新感染症への対応）

### カンジダ・アウリスへの対応

- 2009年より日本において初めて報告された真菌。非侵襲が主体であったが、近年、米国・欧州・インド・南米・アフリカ等において、遺伝子型が異なる多剤耐性の侵襲性の感染症事例が報告されており、感染制御の困難からWHOが優先病原体の1つに位置づけている真菌。令和5年度において、日本において海外株と同じ遺伝子系統に罹患し、国内初となる死亡例が報告された。
- 国立感染症研究所や国立成育医療研究センターと協力し、米国CDCのガイドラインや、国内での臨床経験等を踏まえ「**診療の手引き**」を作成し、当院の専用HPに公表
- 検体・分離株搬送に加え、連絡票や調査票の作成等を実施し、**サーベイランス体制の構築**に国立感染症研究所と協力
- **地方自治体や医療機関に向けて講習会**（「カンジダ・アウリスの臨床、行政対応アウトブレイクの備え」）**を令和5年度と令和6年度に実施**し、啓発活動を実施



## 2. 研究（未知の感染症への対応）

### Covid-19に対する回復者血漿療法の開発

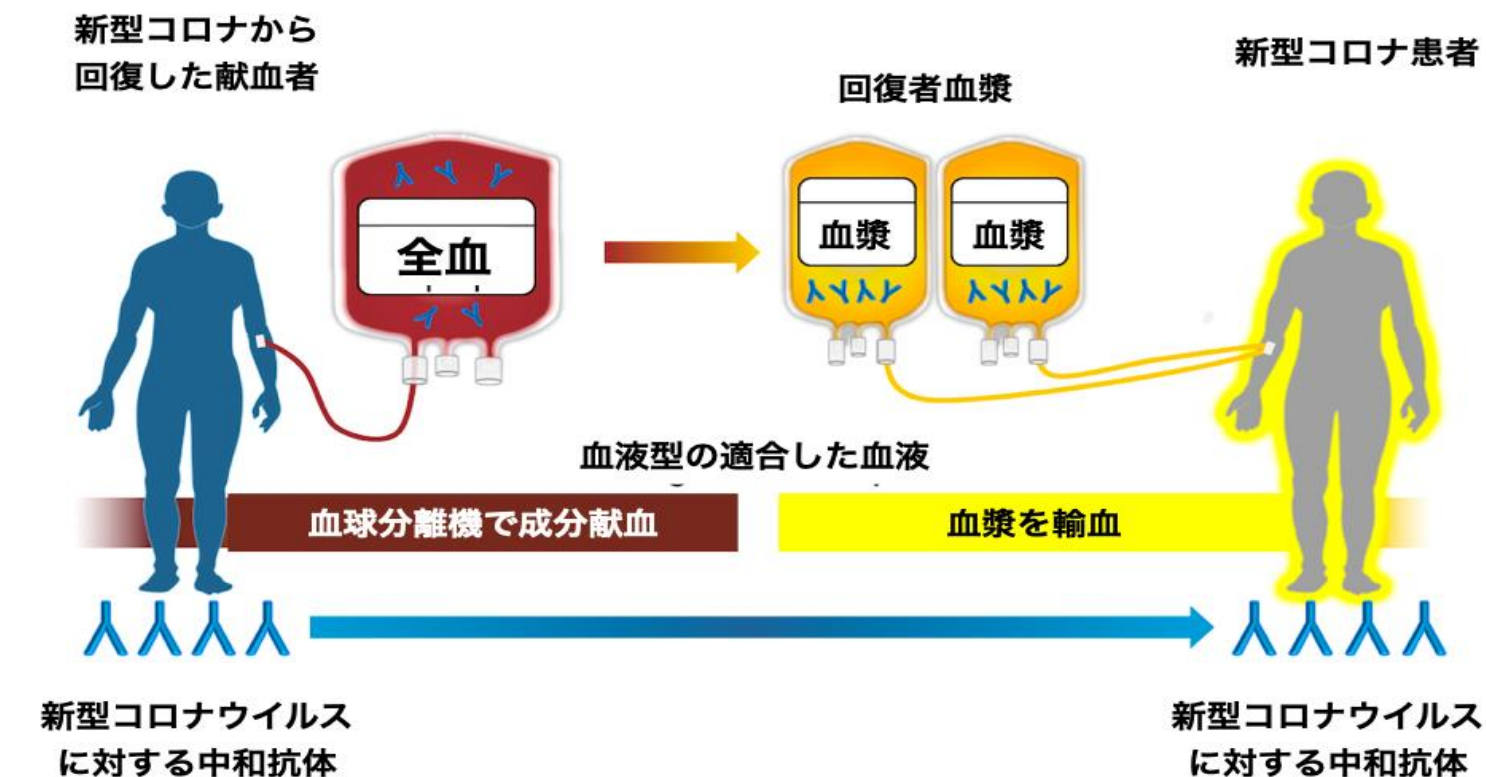


Illustration: David H. Spach, MD

## 2. 研究（未知の感染症への対応）

### COVID-19回復者血漿を用いた治療の有効性・安全性の検討

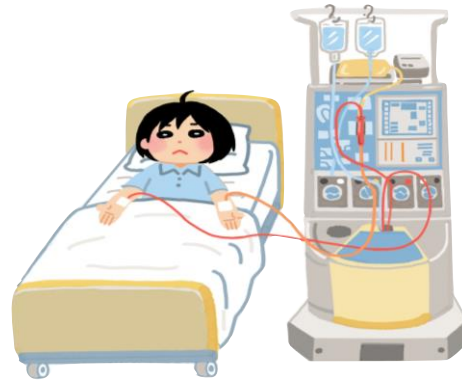
#### 回復者のスクリーニング



2020年4月末より開始  
2021年2月12日現在**467**名  
にスクリーニングを実施

対象：新型コロナから回復し、発症から21日以上経過している方

#### 血漿の採取



2020年5月より開始  
2021年2月12日現在**152**名  
分の血漿を採取・保存

対象：スクリーニング検査において、十分な抗体価があり、心機能に異常がなく、感染症スクリーニングで陰性であった方

#### 血漿の投与



2020年10月より開始  
2021年2月12日現在、**11**名  
の患者に投与

対象：新型コロナと確定診断されて、入院3日以内に酸素投与を必要とする中等症の成人患者



# 目次

1. 高度医療の提供
2. 研究
3. 人材育成
4. その他

## 3. 人材育成（臨床研修医の育成）

### 臨床研修医の育成

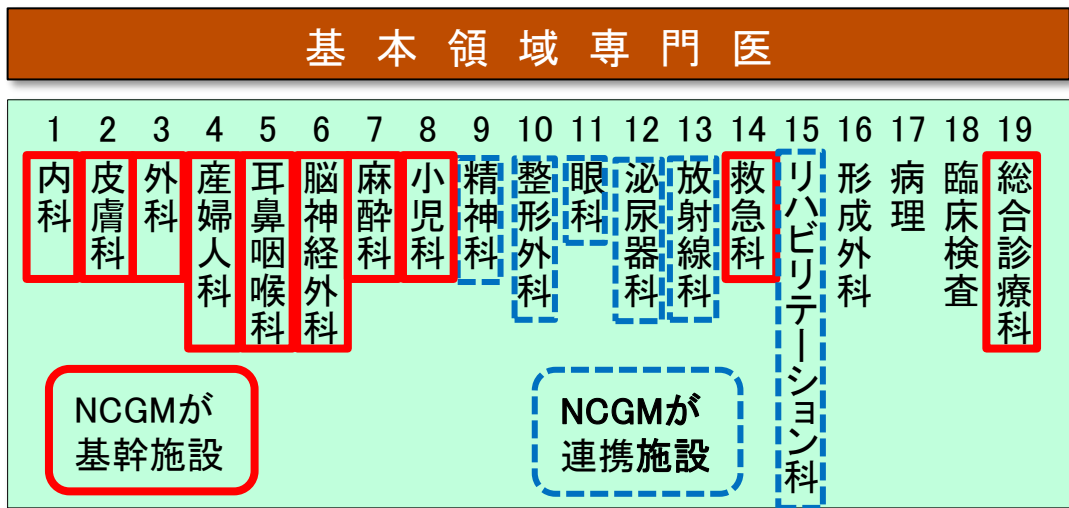
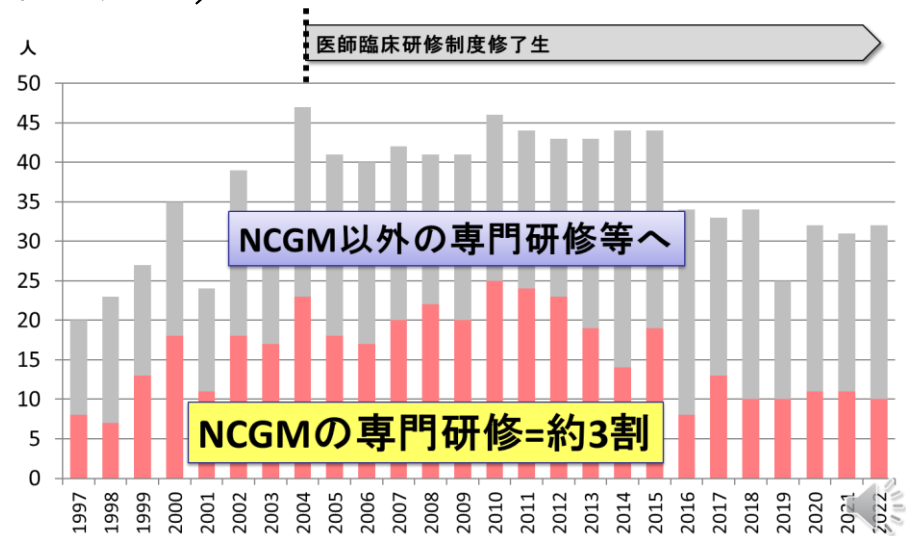
- 臨床研修医は内科30人/年、歯科2人/年  
全ての年でフルマッチ
- 患者安全と多職種協働を重視した教育。外国人診療の経験も積める  
研修医、専攻医の派遣を通じて地域医療にも貢献
- NCGM内で臨床研修指導医養成講習会を計12回開催
- 人材育成業務を円滑に行うために、専門の事務部門(スタッフ4人)を設置

# 3. 人材育成（臨床研修医の育成）

## 臨床研修医の育成

臨床研修の地域医療連携先

| 分類  | 都道府県   | 病院名       |
|-----|--------|-----------|
| 過疎  | 秋田県    | 角館総合病院    |
| 過疎  | 岩手県    | 県立千厩病院    |
| 過疎  | 岩手県    | 県立東和病院    |
| 過疎  | 高知県    | 高知県病院群    |
| 中間  | 埼玉県朝霞市 | 堀ノ内病院     |
| 中間  | 東京都新宿区 | 聖母病院      |
| 診療所 | 東京都新宿区 | 新宿ヒロクリニック |
| 診療所 | 東京都板橋区 | やごうクリニック  |



## 3. 人材育成（専門医の育成）

### 専門医の育成

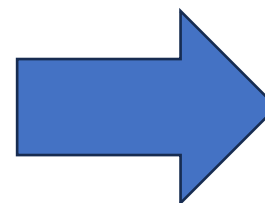
- 総合病院機能を活かし、あらゆる診療科に対応できることや、全国トップクラスの救急車受け入れ病院である利点を活かして、診療科を問わず幅広い専門医研修プログラムを展開
- 日本専門医機構 基本領域（プログラム基幹施設の体制整備の状況など）

#### プログラム基幹施設

- ・ 内科
- ・ 救急科
- ・ 総合診療科
- ・ 小児科
- ・ 産婦人科
- ・ 外科
- ・ 脳神経外科
- ・ 放射線科
- ・ 麻酔科
- ・ 耳鼻咽喉科
- ・ 皮膚科
- ・ 病理診断科

#### プログラム連携施設

- ・ 精神科
- ・ 整形外科
- ・ 眼科
- ・ 泌尿器科
- ・ リハビリテーション科
- ・ 形成外科



令和3年度に基本領域19分野すべての基幹認証を取得

これまでに12分野の基幹施設として体制整備

# 3. 人材育成（専門医の育成）

## 専門医の育成

総合診療専門研修プログラムの例

津久見中央病院（大分）



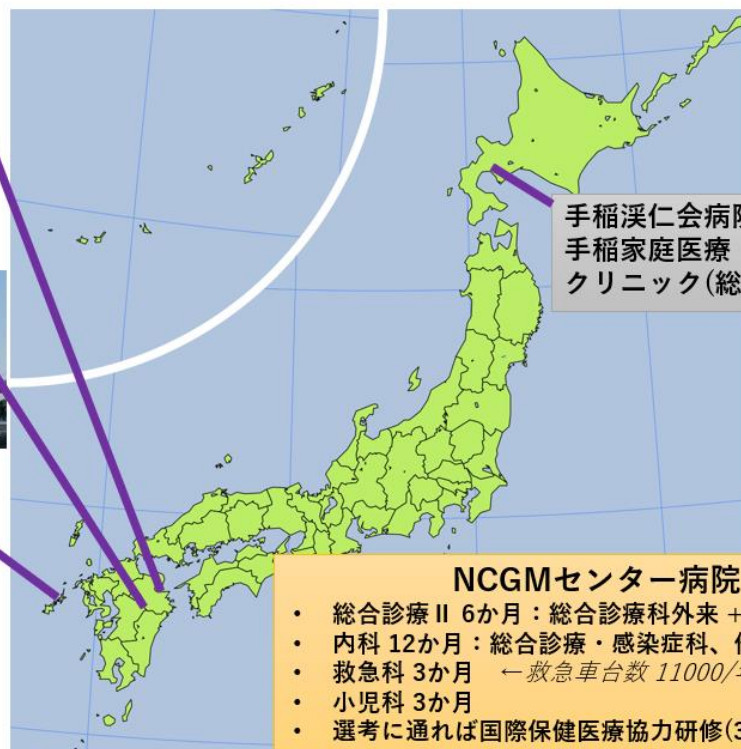
帰巖会みえ病院（大分）



長崎県上五島病院



総合診療Ⅰ 合計12か月  
へき地/医療過疎/離島の施設から組み合わせて



手稲溪仁会病院(内科)  
手稲家庭医療  
クリニック(総合診療Ⅰ)

### NCGMセンター病院

- 総合診療Ⅱ 6か月：総合診療科外来＋総診感病棟
- 内科 12か月：総合診療・感染症科、他の専門内科
- 救急科 3か月 ←救急車台数 11000/年
- 小児科 3か月
- 選考に通れば国際保健医療協力研修(3か月)も可能



# 3. 人材育成（専門医の育成）

## 専門医の育成と外部連携施設への派遣

|                               | 内科                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 総合診療科                                                                                             |
|-------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 専攻医定員                         | 13人/年                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 2～3人/年                                                                                            |
| 外部連携施設への派遣期間                  | 3年間の研修のうち原則9か月～18か月                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 3年間の研修のうち原則12か月                                                                                   |
| 主たる外部連携施設<br>（内科はシーリング外施設を記載） | 国立国府台医療センター（千葉県）<br>国立病院機構東埼玉病院（埼玉県）<br>日本海総合病院（山形県）<br>市立角館総合病院（秋田県）<br>町立国保嶺北中央病院（高知県）<br>静岡県立静岡がんセンター（静岡県）<br>湘南鎌倉総合病院（神奈川県）<br>沖縄県立南部医療センター・こども医療センター（沖縄県）<br>佐久総合病院（長野県）<br>静岡県立総合病院（静岡県）<br>虎の門病院分院（神奈川県）<br>谷津保健病院（千葉県）<br>沖縄協同病院（沖縄県）<br>埼玉県立循環器・呼吸器病センター（埼玉県）<br>さいたま赤十字病院（埼玉県）<br>亀田総合病院（千葉県） | 長崎県上五島病院<br>津久見中央病院（大分県）<br>帰巖会みえ病院（大分県）<br>手稲家庭医療クリニック（北海道）<br>日本海総合病院（山形県）<br>草花クリニック（東京都あきる野市） |

## 3. 人材育成（専門医の育成）

### 専門医の育成

#### ■ 日本専門医機構 サブスペシャルティ領域（専門研修施設の認定の状況）

##### 内科系

- ・ 日本糖尿病学会認定教育施設
- ・ 日本感染症学会認定研修施設
- ・ 日本呼吸器学会認定施設
- ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・ 日本消化器病学会認定施設
- ・ 日本腎臓学会認定研修施設
- ・ 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・ 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 など

計22分野で認定

##### 外科系

- ・ 日本外科学会認定医制度認定修練施設
- ・ 日本気管食道科学会認定専門医研修制度
- ・ 日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・ 日本消化器外科学会認定専門医修練施設
- ・ 日本大腸肛門病学会専門医研修施設
- ・ 日本乳癌学会認定医・専門医制度認定研修施設
- ・ 日本肝胆膵外科学会高度技能専門医制度による修練施設B など

計11分野で認定

##### 内科系・外科系以外

- ・ 日本集中治療医学会認定専門医研修施設
- ・ 日本病院総合診療医学会認定施設
- ・ 日本脳卒中学会専門医研修教育病院
- ・ 日本核医学会認定専門医教育病院
- ・ 日本放射線腫瘍学会認定施設
- ・ 日本 IVR 学会専門医修練施設
- ・ 日本形成外科学会教育関連施設
- ・ 臨床遺伝専門医制度 研修施設認定 など

計22分野で認定

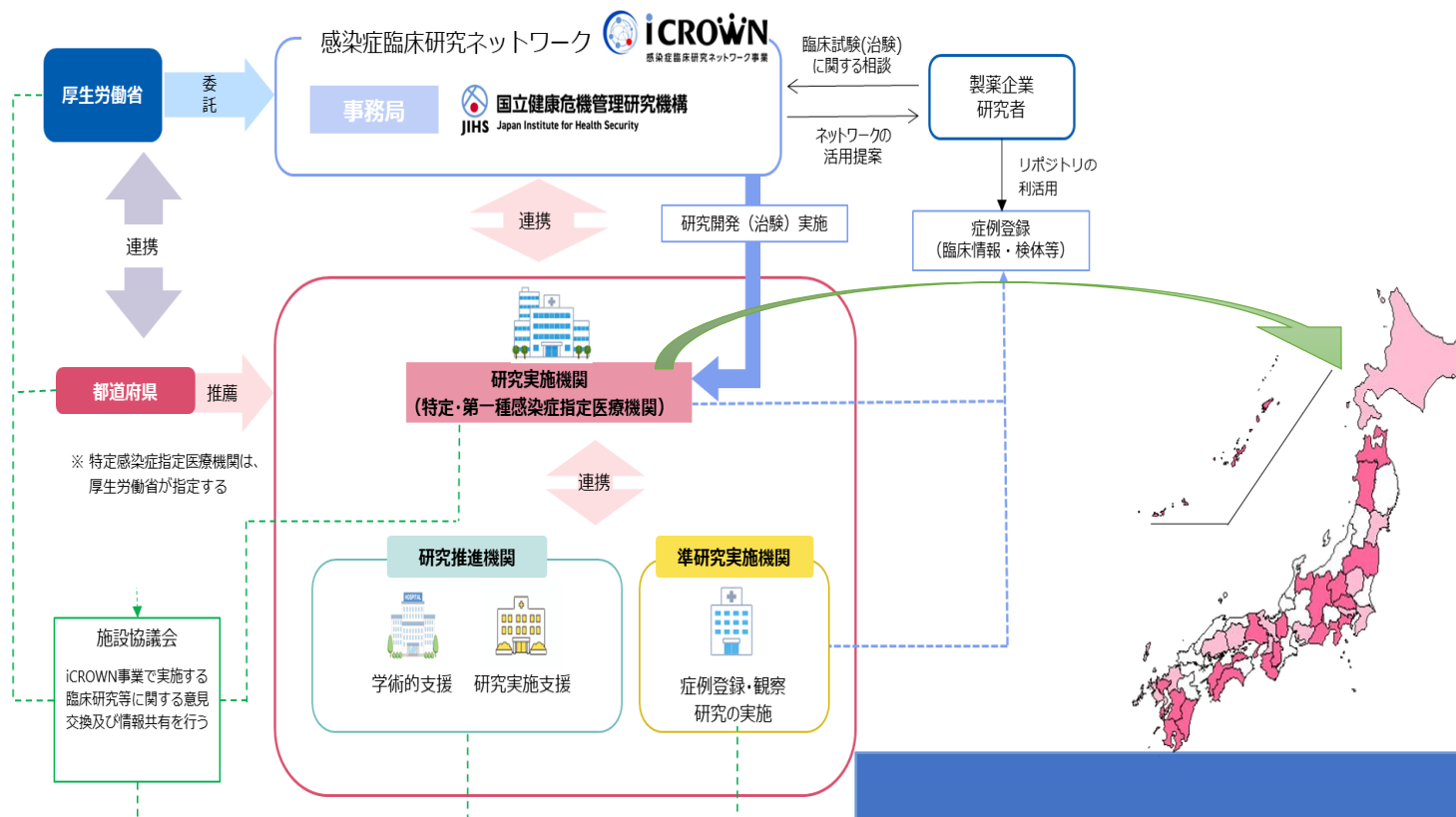
# 目次

1. 高度医療の提供
2. 研究
3. 人材育成
4. その他

# 4. その他（感染症臨床研究ネットワーク：iCROWN事業）

## JIHS内に設置された事務局の役割

- 感染症危機時の研究開発課題を網羅的に同定し、参画医療機関（感染症指定医療機関等）に共有
- 感染症危機発生時に迅速に対応できる研究開発体制を構築するために、各医療機関の研究開発体制構築を支援
- 研究者同士の“顔の見える関係”を重視し、人材交流や意見交換が可能な研修会等を定期的に企画
- 医療機関からiCROWNのリポジトリに収集された試料・データを希望する製薬企業・研究者に提供
- 情報・成果を研究者のみではなく、国民の皆様へ展開することにも注力



## 研究実施機関

令和6年度には、14の特定・第一種感染症指定医療機関（表左側,地図■）の参画同意を得た。また、令和7年度に向けて、以下の24施設（表右側,地図■）の参画同意を得て、計38の医療機関により、感染症臨床研究ネットワークを拡大

| 令和6年度参画研究実施機関 |                       | 令和7年度参画研究実施機関 |                  |
|---------------|-----------------------|---------------|------------------|
| 北海道           | 市立札幌病院                | 青森県           | 青森県立中央病院         |
| 宮城県           | 東北大学病院                | 秋田県           | 秋田大学医学部附属病院      |
| 栃木県           | 自治医科大学附属病院            | 福島県           | 福島県立医科大学附属病院     |
| 千葉県           | 国際医療福祉大学成田病院          | 群馬県           | 群馬大学医学部附属病院      |
| 千葉県           | 成田赤十字病院               | 埼玉県           | 埼玉医科大学病院         |
| 東京都           | 国立国際医療センター病院          | 東京都           | 東京都立駒込病院         |
| 愛知県           | 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 | 神奈川県          | 横浜国立大学病院         |
| 愛知県           | 常滑市市民病院               | 長野県           | 長野県立信州医療センター     |
| 京都府           | 京都府立医科大学付属病院          | 富山県           | 富山県立中央病院         |
| 大阪府           | りんくう総合医療センター          | 静岡県           | 静岡市立静岡病院         |
| 広島県           | 広島大学病院                | 滋賀県           | 市立大津市民病院         |
| 岡山県           | 岡山大学病院                | 大阪府           | 大阪市立総合医療センター     |
| 福岡県           | 福岡東医療センター             | 兵庫県           | 神戸市立医療センター中央市民病院 |
| 長崎県           | 長崎大学病院                | 奈良県           | 奈良県立医科大学附属病院     |
|               |                       | 和歌山県          | 日本赤十字社和歌山医療センター  |
|               |                       | 香川県           | 香川県立中央病院         |
|               |                       | 愛媛県           | 愛媛大学医学部附属病院      |
|               |                       | 高知県           | 高知医療センター         |
|               |                       | 佐賀県           | 佐賀県医療センター好生館     |
|               |                       | 熊本県           | 熊本市立熊本市市民病院      |
|               |                       | 宮崎県           | 県立宮崎病院           |
|               |                       | 鹿児島県          | 鹿児島大学病院          |
|               |                       | 沖縄県           | 琉球大学病院           |

## 4. その他（診療録直結型全国糖尿病データベース事業 J-DREAMS）

